## 中村元博士一周忌追悼記念講演会 報告

吉 田 宏 晢

内外の学者・研究者・教え子たち約千名でした。 ました。主催は東方研究会・東方学院で、出席者はインド大使館 忌追悼記念講演会が、本郷の東京大学安田講堂において開催され 一等書記官ラージャ・セイカ氏をはじめとする中村先生ゆかりの 去る平成十二年十月九日、本学会名誉会長故中村元先生の一周

一、開会のことば 「中村元先生『私の履歴書』」 司会者 奈良康明氏

一、ビデオ上映

式次第は、

、三帰依文唱和 導師 田村晃祐氏

一、講演

「中村元先生の人と業績」前田專學氏

一、「中村元先生との仏縁」 一、「ブッダのことば、中村元先生のことば」 瀬戸内寂聴尼 立松和平氏

> 閉会のことば 中村洛子夫人

三枝充悳氏

顧問であることはご存知のことと思います。いずれも中村先生の 理事長、三枝充悳氏は筑波大学名誉教授・東方学院長で本学会の 学仏教学会理事長、中村洛子夫人は中村先生の奥様で東方研究会 学教授・大学院研究科長、前田專學氏は東大名誉教授・日本印度 このうち、奈良康明氏は前駒澤大学学長、田村晃祐氏は東洋大

ご遺志を受け継がれたことが報告されました。次にビデオ『私の 履歴書』を上映してありし日の中村先生を偲んだ後、田村晃裕師 充悳学院長、前田専學常務理事によるトロイカ方式で中村先生の 会・東方学院の運営について紹介があり、中村洛子理事長、三枝 奈良康明東方研究会理事によって、中村先生亡き後の東方研究

後を担う優れた学者たちであります。

樹の下にはいつも憩いと安らぎがあったと述べられました。して、先生の生歴と業績について詳細かつ懇篤に講演があり、そして、先生の生歴と業績について、これをインドのバニアンの大樹に譬え、インドのみならず世界の思想・文明・歴史の全体の大樹に譬え、インドのみならず世界の思想・文明・歴史の全体の大樹に譬え、インドのみならず世界の思想・文明・歴史の全体の大樹にいても大生の人柄と業績について、これをインドのバニアンの大崎の下にはいつも憩いと安らぎがあったと述べられました。

直が課題として残されたということもお話になりました。 直が課題として残されたということもお話になりました。 直が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。 真が課題として残されたということもお話になりました。

> また、第一九巻「インドと西洋の思想交流」ではインドの思想史 が国において可能な限り平易な日本語で紹介したとし、あるいは る批判的意義を有していたとされています。また第九巻「ウパニ 欠除のあり方に対して、東洋思想を再評価し、西洋の哲学に対す 時の我が国において西洋の哲学や権威に対する盲従・批判精神の 世界中とくにアメリカにおいて高く評価された。この本はその当 『東洋人の思惟方法』を終戦直後に刊行され、これは英訳されて あり、これにより先生は学士院賞・恩賜賞を受けられた。続いて 史」全四巻は、古代から中世・近代・現代にわたる世界の文化圏 要』の訳註で、世界最初の全訳であること、別巻の「世界思想 ます。また、第二八巻第二九巻は、「インドの哲学体系 の全体を描き出すためにこの作業が必須であったと述べられてい シャッドの思想」はインド人の人生観の根源であり、ショーペン ませんが、中村先生の学問上の後継者たる前田先生ならではの選 れた全人未踏の業績であることを指摘。ここでは全部を紹介でき における共通の問題を設定し、これを比較するという方法で書か でこれは十四世紀のインドの大哲学者マーダヴァの『全哲学綱 ハウアーにも影響を与えた人類の叡智の結集であるが、これを我 中村先生の最初の業績は「初期ヴェーダーンタ哲学の研究」で I I

中村元博士一周忌追悼記念講演会・平成一二年一〇月九日

集の解説でありました。

資料「中村元先生の人と業績」(前田專學)

『中村元選集』(決定版)全三二巻・別巻八

第一巻 東洋人の思惟方法Ⅰ インド人の思惟方法

東洋人の思惟方法皿 日本人の思惟方法

東洋人の思惟方法Ⅱ

シナ人の思惟方法

第五巻 第四巻 インド史I(インダス文明~マウリヤ王朝) 東洋人の思惟方法Ⅳ チベット人・韓国人の思惟方法

第七巻 インド史Ⅲ(グプタ王朝~イスラム侵入)

インド史Ⅱ (マウリヤ王朝~クシャーナ王朝)

第六巻

第八巻 ヴェーダの思想

第九巻 ウパニシャッドの思想

思想の自由とジャイナ教

ゴータマ・ブッダI

〔原始仏教I〕

第一二巻 ゴータマ・ブッダⅡ 原始仏教Ⅱ

仏弟子の生涯 原始仏教皿

第一五巻 一四巻 原始仏教の思想Ⅰ 原始仏教の成立 原始仏教V 原始仏教Ⅳ

第一六巻 原始仏教の思想Ⅱ 〔原始仏教Ⅵ〕

第一七巻 原始仏教の社会思想 原始仏教の生活倫理 原始仏教Ⅵ 原始仏教Ⅶ

第一九巻

インドと西洋の思想交流

第二一巻 第二二巻

第二〇巻

大乗仏教の思想

空の論理

原始仏教から大乗仏教へ

[大乗仏教Ⅱ] [大乗仏教Ⅰ]

仏教の美術に生きる理想 [大乗仏教Ⅳ] 〔大乗仏教Ⅲ〕

ニヤーヤとヴァイシェーカの思想 ョーガとサーンキャの思想 [インド六派哲学Ⅰ]

第二五巻 第二四巻 第二三巻

〔インド六派哲学Ⅱ〕

ミーマンサーと文法学の思想 [インド六派哲学Ⅲ]

ヴェーダーンタ思想の展開 【インド六派哲学Ⅳ】

インドの哲学体系Ⅰ [『全哲学綱要』訳注Ⅰ]

【『全哲学綱要』訳注Ⅱ】

インドの哲学体系Ⅱ

第二九巻

第二七巻 第二六巻

第二八巻

第三〇巻 ヒンドゥー教と叙事詩

第三一巻 現代インドの思想 近代インドの思想

世界思想史 全四巻

日本の思想 全四巻

別 別

今年刊行されたご著作

①中村元著『中村元「老いと死」を語る』 〔麗澤「人間学」シリーズ③」〕麗澤大学出版会、2000

②中村元編著・奈良康明・佐藤良純著・丸山勇撮影

『新編・ブッダの世界』学研、2000

中村元博士一周忌追悼記念講演会 報告

 Hajime Nakamura, Gotama Buddha: A Biography Based on the Most Reliable Texis, translated by Gaynor Sekimori, Vol. 1. Tokyo: Kosei Publishing Co., 2000

3000 ④中村元監修・峰島旭雄責任編集『比較思想事典』東京書籍

⑤中村元著『論理の構造』上・下、青土社、2000

また、中村先生の社会的業績として、(財)東方研究会の設立また、中村先生の社会的業績として、(財)東方研究会の設立また、中村先生の社会的業績をやめます。質問はありますからを挙げられ、これは東洋思想の研究において、才能がありながられた先輩が職につけずに自殺せられるという悲しみを受けられたのが、このような利他の事業になったとのことであります。四階の東方研究会で学歴・年齢・職業を問わない自由なしかも学問研究の情熱ある人々を集めて自ら講義をされ、また多くの研究四階の東方研究会で学歴・年齢・職業を問わない自由なしかも学問研究の情熱ある人々を集めて自ら講義をされ、また多くの研究西にも講義を続けられたこと。洛子夫人のお話として、病床にあって意識を失われていたときにも、「それでは講義をされ、また多くの研究体の具合が悪いので坐ったままで失礼」といい、四十五分間実際体の具合が悪いので坐ったままで失礼」といい、四十五分間実際体の具合が悪いので坐ったままで失礼」といい、東方研究会の設立また、中村先生の社会的業績として、(財)東方研究会の設立また、中村先生の社会的業績をやめます。質問はありますか」といわれたということ。あるいは意識のないままに、対しないを関する。

い感動を与えられたのであります。 聞の大著述家の最後のあり様を克明に語られ、議場の参会者に深用紙に原稿を書くように右手が動いていたということなど前代未

体憩ののち、立松和平氏・瀬戸内寂聴師の講演があり、立松氏体憩ののち、立松和平氏・瀬戸内寂聴師の講演があり、立松氏は若い頃インドを放浪したとき、いつも肌身はなさず、中村先生の岩波文庫『ブッダのことば』を持ち歩き、これを読んで生きていくことができたことなどの経験を語られ、瀬戸内師は「中村先生のとばは、中村洛子夫人と三枝充悳氏の謝辞とで終わりましたが、とばは、中村洛子夫人と三枝充悳氏の謝辞とで終わりましたが、とばは、中村洛子夫人と三枝充悳氏の謝辞とで終わりましたが、中村先生の岩波であったと思います。

辞が収録されています。の「中村元博士著作論文目録」および葬儀の際の各界の諸氏の弔中村先生の追悼号であり、これには先生の年譜と一〇〇〇点以上中村先生の追悼号であり、これには先生の年譜と一〇〇〇点以上なお、一九九九年東方学院発行の機関誌『東方』(第15号)は

(よしだ・ひろあき、仏教学、

比較思想学会会長・大正大学教授)